

沖永良部の花をスマートフラワーでお届け!

沖永良部島内では、令和3年度から実需者（花き販売業者）のゴミ削減、流通コスト低減が期待できるスマートフラワー規格（通常より10cm茎を短くした70cm規格）での出荷に取り組んでいます。

70cm規格にすることで、廃棄物の削減や、生産者側も輸送・生産コストを抑えられるなど多方面で経済的な効果が期待できます。

SDGs（持続可能な開発目標）にも配慮した取組でもあり、持続可能な産地を目指す上で重要です。



1 スマートフラワーフェア

今年、3月に関東のホームセンター約60店舗でスマートフラワーフェアを実施しました。

沖永良部の花（スプレーギク、ソリダゴ、テッポウユリ）を花束で販売し、QRコードを活用した沖永良部のPRも併せて行った結果、出荷した花はほぼ完売しました。

販売者のみならず、消費者からも確かな需要を確認できたので更なる生産拡大に向けて取り組んでいます。



2 スプレーギク出荷方法見直しの実証、調査

沖永良部島内の生産量が最も多いスプレーギクで、出荷箱と出荷する際の処理の見直しを今年から下記のとおり行いました。

○新しい出荷箱の作成

○出荷する際の下葉の処理方法の検討
（従来は、切り口から15cm程度→35cmに変更）

○花の鮮度保持方法について
（従来は、新聞紙→鮮度保持シートに変更）



下葉15cm処理

下葉35cm処理

6月には、秋田県・山形県、8月は千葉県へサンプルを発送し、品質等の調査と実需者からの評価をいただきました。その結果、出荷箱の耐久性や、切り花品質、下葉処理、鮮度保持シートの活用等の取組は高く評価されました。

現在、実需者のニーズに合わせた方法で出荷を行えるよう検討しています。



新聞紙

鮮度保持シート



品質、花持ちは向上！
ゴミが少ない、
運賃等コスト削減も！
販売にも生産にも優しい

3 スマートフラワー規格出荷実績

今年7月から、沖永良部花き専門農協の夏秋スプレーギクは、スマートフラワー規格で全量出荷が行われています。梅雨の長雨による病害発生や夏場の台風による欠航で厳しい生産・出荷状況の中、7～9月の出荷本数が約226万本（前年比約1割増）、販売額が前年比3割増と好成績でした。生産者はこの結果を受けて次年度への栽培意欲も高まっています。

スマートフラワー規格出荷で夏期（7～9月）の販売額が前年と比べて3割アップしました！